

神奈川からがんをなくす会(ACクラブ)

総 括

平成23年度における新入会員は3名である。全員男子で検診希望項目は消化器および肺がん検診である。現在のところこの組合せが最も多く97名である。昨年度より男性16名、女性3名の減少であり、矢張り高齢化といえるかどうか65歳以上からの16名を指摘できる。性別では女性の希望項目は子宮・乳がん検診に消化器がん検診の組合せが最多で72名、ついで肺がん検診を加えた23名で単独子宮・乳がんは6名、肺検診は僅か1名にすぎない。因みに消化器単独は男女それぞれ2名、5名のみである。男性における肺検診単独が19名であるのは矢張り肺がんを特化して検診を謳う施設が少ないことによるものである。

消化器がん検診

がん検診としては胃X線検査、腹部超音波検査、便潜血反応であり、夫々、胃、食道、肝臓、胆嚢、膵、腎のがんに対して、また便潜血反応は大腸がんに対する一次検査の役割をもつ。本年度の消化器検査受診者は199名で男性96名、女性103名、このうち胃X線検査受診者は男性68名、女性60名、その中から要内視鏡精検の指示を受けた者は6名で実際に内視鏡検査を受けた者は3名であった。要治療者は1名で他の2名は異常を認めなかった(表1、2、3)。胃がん発見はなかった。超音波検査は186名受診し男性92名、女性94名であった(表4)。便潜血反応による大腸がん検診は180名が受診者し、要精検者は8名、このうち大腸ポリープ3名が他医療機関により発見されているが、がん発見はなかった。4名は精査勧告されたが未受診であった。(表5)。

肺がん検診

例年の如く総会員数と検診受診者総数とは個人の検診のスケジュールが年度内に入らないことがありやむを得ない。昨年よりやや減少している。このうち3名が何らかの所見で再検(単純撮影を2名)、CT検査を1名が受診しているが共に疾患としては指摘されていない。喫煙者が減ったためか喀痰細胞診はA、Bのみであって悪性度への移行かと一時期考えられていたCは昨年と同じく姿を消している。

昨年につづいて肺がん例は0である。30年を越える最も会員歴の長いグループは50名である。個人検診であることを重視する点から表11に付加検診として尿、血液、心電図検査では脂質異常値は52%、腎・泌尿器検査、心電図異常はそれぞれ34、39%を示している。母集団が161名とするとかなり高頻度に異常を指摘されている。

乳がん検診

乳がん検診は現代の標準的対策型検診より更に精度を上げて、40歳以上は視触診に加えて隔年にマンモグラフィー(以下MMG)2方向(MLO、CC)とその間の年には超音波(以下US)を併用する方法を原則としてきた。MMG2方向の毎年X線被爆量が多く、日本人に多い高濃度型の場合有効性が高いとは思われない。近年進歩の目覚ましいUSを隔年に挟む方法が両者の欠点を補い、より合理的と考えられるからである。無論年齢的と個人的撮像効果を配慮し適宜選択可能とした。MMGは本検診担当者が読影し、読影有資格者によりダブルチェックされ、USは担当者自身が行い、穿刺細胞診も必要なら担当者自身が行うつもりだがその様なケースは最近はない。受診者は前年度より6名減り89名で新規加入者は無い。リピーターのみなので発見乳がんはない。この割合では10年に1～2人しか出ないであろう。

子宮がん検診

平成24年度のACクラブの女性受診者数は110名であり、その中で子宮頸がん検診受診者は72名(65.5%)、子宮体がん検診受診者は60名(54.5%)であった。子宮体がん検診は、すべて子宮頸がん検診との併用で受診されることから、ACクラブの女性会員は一般の施設検診者と異なり、高率に子宮体がん検診を希望していることが推察される。年齢的に、ACクラブの女性会員のほうが、一般の施設検診者より高齢の方が多い(60歳代30.0%、70歳代44.5%、80歳代10.0%)こともその理由の一つと思われる。

結果的に、平成24年度の検診者は、子宮頸がん検診、体がん検診とも要精検と判定された方が存在しなかった。がんが発見されなかったことは、何はともあれ喜ばしい結果と言える。

平成22年度より、希望で子宮頸がんに対するHPVテスト(ヒトパピローマウイルステスト; Hybrid capture II法)が受けられるようになった。実際にACクラブでは平成24年度は68人にHPVテストが施行され、全員が陰性であった。陽性が出た場合には、二次検診として精密検査(コルポスコピー、組織診断)が施行されている。

一つ気になることは、平成24年度に新入会された人は0であり、受診者数は前年度(平成23年度110名)と全く変わらなかった。増加に向けてのさらなる努力が必要と思われる。

関係の集計表は107頁に掲載